

島内・島立「人権を考える住民の集い」ふれ愛コンサート



舞♡フレンズ



島立小学校 brassバンド部



3校合同演奏

2月9日(日)音楽文化ホールで、ふれ愛コンサートが開催されました。最初のステージは発足から27年の車いすダンス、舞♡フレンズの華やかなダンスを堪能しました。島立小学校 brassバンド部、松島中学校吹奏楽部、高綱中学校吹奏楽部の3校の演奏が続き、それぞれ特徴ある演奏で心に響くひと時でした。最後は3校での宝島で大編成の息の合った演奏に感動しました。



高綱中学校吹奏楽部



松島中学校吹奏楽部



令和7年3月1日現在	
世帯数	2,913 世帯
男	3,200 人
女	3,339 人
総人口	6,539 人

町区冬季成人講座

「頭と体が温かくなるねえ。」コグニサイズ(認知症予防運動)を実践した参加者は、笑顔と心地よい疲労感に包まれました。最強寒波の訪れていた2月8日(土)に、一之瀬脳神経外科病院から、健康運動実践指導者の西山さんを講師に招き、恒例の成人講座が開催されました。

健康寿命と平均寿命の差異は男性で9年、女性で12年もあり、誰かの介護を受けて天寿を全うする現在において健康寿命を延ばす重要性や、運動による予防効果について丁寧な説明を受けました。

そこから、認知症や運動機能障害・虚弱の予防に役立つ脳フィットネスの一例を皆で体験しました。頭と体を同時に使う運動として、足踏みをしながら後出しじゃんけんをする、リズムに合わせて手を動かしながら、しりとりを繋げる等、難易度を上げながら取り組みました。軽度な運動であっても、慣れない動きや思考が脳を刺激して血流改善されることを実感しました。



松本初のストレッチ講座

女性委員会主催の講座第三弾は、「キレイと健康」をキーワードに、座位と立位での入門的なストレッチを教わりました。講師の丸山由紀さんは夫婦で松本市に移住され、今回は初の松本講座デビューでした。

講座は画一的な運動紹介ではなく、効果的で自分に合う運動を持ち帰ってほしいという講師の思いがあり9名の参加者は自身の筋肉の特徴を確認できたことで、自分に必要なストレッチの要点を知って取り組むことができました。

専門用語を交えながらも丁寧で分かりやすい表現が好評で、10分もすると体が内側から温かくなり、時には小さな悲鳴が聞こえる場面もあり、たっぷり50分の運動を体験しました。最後は、白熱した質問タイムが続き、予定時間を超えた学びとなりました。



季節の写真



三九郎(永田)



三九郎(町区)



三十段の雛飾り

避難所開設訓練の実施

島立地区町会連合会では2月24日に島立体育館で約50名の住民参加により避難所開設訓練を実施しました。



道祖神祭り・やしょうま作り

小学校2年生女児は「大変だけど楽しい」と微笑んでいました。やしょうまは公民館に安置されている大日様に

中村町会育成部（4家庭・子ども9人）で2月8日（土）に中村公民館にて開催されました。蒸した米粉に食紅の赤・緑・黄色と胡桃で着色した生地を親子で協力し模様を表現し完成させました。



お供えし、皆で美味しくいただきました。児童数も減り、以前は各戸配布もありましたが困難になり行事の在り方も変わってきています。

【成績】
優勝 南栗
準優勝 三の宮
第3位 中村



モルックはシンプルながらも戦略が求められるスポーツで、参加者たちは真剣にプレーしつつも、和気あいあいとした雰囲気楽しんでいました。この大会は、地域の絆を深める素晴らしい機会となり、交流の場としても大いに盛り上がりました。モルックの楽しさが広がるきっかけとなりました。

参加者は「しろくま」チームから「タピオカ」チームまで、各チーム5〜6人ずつの6チームに分かれ、ピンポン玉やラケット、卓球台を使った4つの競技に挑戦しました。競技内容は①ピンポンカップ

競技後には、6点先取の体験試合も行われ、卓球経験者は本領発揮していました。堀米公民館、堀米体育部、堀米卓球部が主催したこのピンポンフェスティバルは、気軽に誰でも卓球に慣れ親しんでもらいたいという考えのもとに企画され、今年も大成功に終わりました。来年も多くの方の参加をお待ちしております。

イン、②ピンポン玉リフティング、③ラリーゲーム、④的当てゲームの4つで、どれもとても簡単なゲームなので、お子さんから高齢者まで誰でも参加可能です。チーム一丸となって競技に取り組み、すぐにコツをつかんで高得点を出したり、珍プレーにも盛り上がったりで、あつという間に競技を終えました。

参加者は「しろくま」チームから「タピオカ」チームまで、各チーム5〜6人ずつの6チームに分かれ、ピンポン玉やラケット、卓球台を使った4つの競技に挑戦しました。競技内容は①ピンポンカップ



厚生労働大臣賞を受賞

北栗ボランティア
会長 浅田 佳代美



北栗ボランティアの活動に対し、厚生労働大臣賞をいただき、大変有難く光栄なことと感謝申し上げます。

北栗ボランティアは、社会福祉協議会の研修会を受講された方々により、平成9年より活動を始めました。当初数人が集まり、困っている高齢者のために何かできないかと考え、80歳以上を対象に「お楽しみ会」から始めました。

午後北栗公民館に集まりお茶飲み会から始まった会は、その後、年齢は問わず午前中は物作りや様々な催し、昼食をはさみ午後はゲーム等をして楽しみました。その他コロナ前は、今井やまびこの里、島立敬老園にボランティアを依頼されました。現在は年1回の北栗町会納涼祭、敬老会、そして年数回の町会福祉部主導の「お楽しみ会」も必ずボランティアが参加しています。発足当時から見ますと、会員数は少なくなりましたが、諸先輩方の築いてこられた北栗ボランティアの活動を、これからも次世代に繋げられるよう続けていきたいと思えます。

島立モルック大会

2月2日

（日）に島立体育館でモルック大会が開催され、10の町会から約50名が集まりました。参加者は、年齢や経験を問わず、熱戦を繰り広げ、会場内は終始活気に満ちていました。



堀米公民館 ピンポンフェスティバル

1月26日（日）、堀米公民館にて「ピンポンフェスティバル」が開催されました。昨年に続く2回目のこのイベントは、卓球未経験者でも気軽にピンポンを楽しめ、地域交流を深めることを目的としています。今年は昨年を10名以上も上回る、子ども11名を含む30数名の参加者が集まりました。昨年の活動が公民館報で紹介された効果が現れたと言えるでしょう。

参加者は「しろくま」チームから「タピオカ」チームまで、各チーム5〜6人ずつの6チームに分かれ、ピンポン玉やラケット、卓球台を使った4つの競技に挑戦しました。競技内容は①ピンポンカップ

競技後には、6点先取の体験試合も行われ、卓球経験者は本領発揮していました。堀米公民館、堀米体育部、堀米卓球部が主催したこのピンポンフェスティバルは、気軽に誰でも卓球に慣れ親しんでもらいたいという考えのもとに企画され、今年も大成功に終わりました。来年も多くの方の参加をお待ちしております。

参加者は「しろくま」チームから「タピオカ」チームまで、各チーム5〜6人ずつの6チームに分かれ、ピンポン玉やラケット、卓球台を使った4つの競技に挑戦しました。競技内容は①ピンポンカップ

参加者は「しろくま」チームから「タピオカ」チームまで、各チーム5〜6人ずつの6チームに分かれ、ピンポン玉やラケット、卓球台を使った4つの競技に挑戦しました。競技内容は①ピンポンカップ



まつもと



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 72

春の訪れ、ひな祭り

女の子の健やかな成長を願い
次代につなぐ桃の節句

(撮影 2025.3.2 芳川地区)

未来へつなぐ私たちのまじりの集い

第40回松本市公民館研究集会・

令和6年度地域づくり市民活動研究集会

2月16日、本集会での気づきやつながりをまじりにつくりに生かすことを目的に、延べ330人の市民・関係者が参加その様子のいくつかを紹介します

全体会・パネルディスカッション

「地域が動き出す〜自治を紡ぐ語り合いの実践から〜」をテーマに、松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科の向井准教授が進行し、活動事例が発表されました。

元社会福祉協議会四賀地区センター課長の山岸さんから・住民同士が気楽に支えあえるお互いさまの人間関係構築のための講座を5年間実施・誰もが楽しく集える場所ふくふく亭エールを受講者が開設などの発表がありました。

笑顔での対話の継続が、本音を言いあえる関係につながると理解できました。



パネリスト3名による活動事例のプレゼンテーション



若い世代もエールに参加して話す機会が増えた



ふくふく亭エールでの風景

次に島内地区島高松町会の高山町会長から、「島高松町会未来づくり検討会」の設置と工夫を凝らしたグループ運用での課題検討・おらが町会の意識醸成を目指した町会だよりの毎月発行などの発表がありました。受け身の姿勢打開の努力が感じられました。最後に、大野川小中学校地域学校協働本部の相馬委員から、市で初めての国型コミュニティ・スクール導入を受けて「学校登山の継承やアウトドアクラブ新設、学校音響機器の町会や環境協会との共同購入」などの学校運営協議会の活動

第1分科会 (59人参加)

・松本デュアルスクール制度（住民票移動無しでの就学）などの発表がありました。
・「この地域ならではの」の視点
・「大人が楽しむ様子」を
子どもに見せることの
大切さに気づかされました。

単独避難所指定をうけている安原地区元原町会の地域防災の取り組み「誰でも開設できるよう避難所開設初動リーフレット作成・防災ワークショップを毎月開催」を野村町会長が発表しました。

10グループに分かれた参加者は、防災活動の目的は何か、自分にできることは何か、自分や自分の地区の強み・弱みは何かなど、お互いの考えを出し合いました。

コーディネーターの信州大学地域防災減災センター神田特任助教は「環境はそれぞれ違いますが、強みを伸ばし、弱みを改善していきましよう」と促しました。

第2分科会 (55人参加)

託児を兼ね、お菓子作り体験やお楽しみ会が行われる中、「地域は子育て応援団」について、庄内地区子ども会育成会ほか2団体が発表し、6班に分かれ、話し合いました。



子育ては全体の悩みであり課題だ

「子どもの人生で愛着を育てることに新鮮味、子育てにタイムリミットは？抱きしめればいい!?園に任せれば大丈夫!?子育ては皆でやる」など、正解・結論のない熱い語り合いの場となりました。

第4分科会 (64人参加)

「みんなが集う場所をつくるには？」について、田川小学校6年2組のみなさんがこわく交流会を企画、手作りのなかよし双六やお茶のもてなしで、地域住民との交流を学校で行っていると発表がありました。



地域と学校の距離が近くなりました

第6分科会 (36人参加)

大手公民館からは、みんながアイデアを出し合い開催している居酒屋公民館が住民交流の一助になっていると発表があり、1月で百回目という継続の力に感心しました。

「働きながらでもできる町会長・町会役員」町会の負担軽減・効率化について、島立地区町会連合会の浅野会長から、市の町会依頼業務棚卸し結果「計百件の内、6件削減・34件削減が改善要望中」と発表がありました。

町会連合会常任理事会のリモート開催や住民意向全戸アンケートなどの紹介もあり、環境変化を把握しながら改善推進中と理解できました。

次に、和田地区西原町会の大谷情報部長から、町会活動用のアプリ「Jichinavi」導入と施策の発表がありました。

リアルタイムでの情報発信や安否確認などの町会課題が改善・更に住民間の良好なコミュニケーションにつながる、会合終了後も参加者から質問攻めとなる状況でした。



西原町会のアプリ活用紹介の動画はこちら

視点

②0 まつもと子ども未来委員会
和田裕也さん

大きな地図愛で 地域に貢献！

デジタルマップを活用

小学生から高校生までが所属するまつもと子ども未来委員会は、グループに分かれて地域課題を学び議論し、課題解決をめざす会です。

委員会に所属する和田裕也さん（エクセラン高校3年）は松本市内の自習室やフリースペースを調べ、グーグルマップ上にまとめました。地図上に☆マークで自習室が表示され、タッチすると利用時間や席数、コンセント・冷暖

房の有無などの情報を見ることがができます。委員会の議論のために作成し、市民フォーラムでマップを利用し発表を行ったところ、教育委員会の提案で松本市のホームページ内への掲載が決まりました。



高校最後の仕事です

大好きな地図

和田さんは春から大学で地理分野を専攻するそうです。

もともと趣味でやっていたというマップ作りは、市を走る路線バスの経路を手書きで作成したこともあり、市内にとどまらず、北海道の路線バスの経路も作成中です。そんな地図愛が強い和田さんは、安原地区の歴史研究会から依頼を受け、地区の歴史文化財をデジタルマップにまとめる活動も行っています。こちらもネット上で閲覧できるように検討中です。

未来につなぐ

趣味のマップ作りについて和田さんは「これからも好きなものをつくっていききたい」と話していました。また自身が作成した自習室をまとめた地図については「いろいろな

人が便利だと思ってくれたらうれしい。後輩にはこの地図を見て自習室を使ってみてほしい」と話してくれました。



自習室の詳細な情報を見ることができます



和田さんが
作成した地図は
市ホームページの
フリースペース
コーナーから！

写真でつづる まつもと今昔⑥7

～きらめく街角が消えていく～



(撮影：1984.2)

スクランブル交差点を足早に歩く大勢の人たち。小雪が舞って道路が白くなっても、コートを着ていない人が何人もいる。いちばん寒い季節なのに不思議だ。1階の婦人服売り場や2階のカフェから流れ出した光が、雪と絡んで輪舞する。



(撮影：2025.3.4)

夕闇がビルの谷間に忍び寄る。通勤通学の帰りを急ぐ人々が行き交う時間帯。しかし昔に比べるとその姿は少ない。閉店セール赤い看板が、どこか寂し気に輝いていた。ここの3月末で営業を終える。きらめく街角がまたひとつ消える。

おこひる

生まれて初めて動物と暮らすことになった。保護猫の家族募集にご縁があり、姉妹の子猫二匹を迎えた。名前は、おはぎと

でん。ご飯や病院など、戸惑うことばかり。子どもたちは交代で世話をした▼猫は

気まぐれで、あまり寄り添ってはいない。それでも私が落ち込んでいたある日、二匹が

順番にそっと膝に乗ってきたのである。ぎゅうぎゅうに座り、まるで励ますように寄り

添う姿に胸がいっぱいになった▼だが、そんな癒しもつかの間、猫たちは日々思わぬ行

動を見せる。大事な書類やパソコンの上にとっかかり座り、夜は猛ダッシュ。テーブルを

飛び越え、障子はビリビリ、深夜の大運動会。それでも、つい笑ってしまう▼気がつけば、家族の笑顔が増え、猫の

話題で食卓もいつも以上に明るくなり、スマホの写真は猫だらけ。大事に育てたいし、

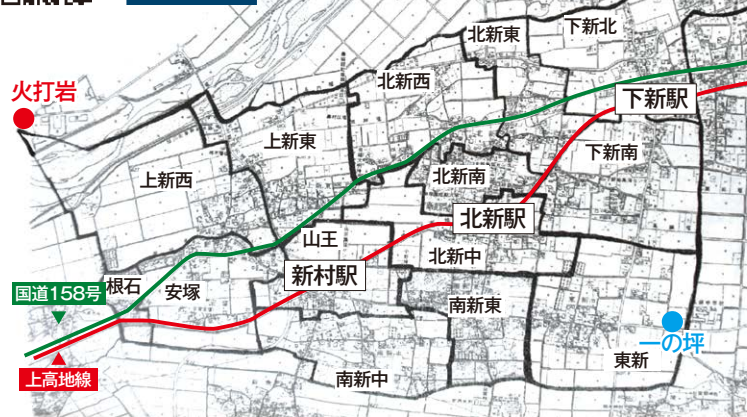
ガレージで生まれたこの子たちが「ここにきてよかった」と

思ってくれたら、これほど嬉しいことはない。





新村地区の
紹介は
こちらから!



なぜか西新は存在しない 新村町会区割り図

高綱中学校の南に一の坪という小字があります。一の坪は条里の基準となる地点の名称で、律令制度のもとで行われた、条里制(土地の区画制度)の名残の地名と思われる。数回にわたる発掘調査などで小字と条里制の起点が一致していることがわかっています。



でいらぼっちゃん伝説もある火打岩

梓川工業団地の中に、火打岩(明神岩)と呼ばれる新村が管理している社があります。ここは、江戸末期には梓川の中州でした。この岩を境界にして、北は梓川・南は新村・西は波田とされていた場所です。この岩の先は新村の岩崎神社までつながっているという伝承があります。

梓川対岸にも新村がある



条里制の基準点とされていた

歴史があるのに新村

松本平の中央に位置する新村地区は、七世紀ごろの条里制遺跡や、秋葉原や安塚など八世紀ごろの古墳群からも推測されるように、早くから開けた土地です。

条里制の名残 一の坪

『信濃史料』第二巻に記載の推古天皇3年(595)「四天王寺縁起」には「信濃国筑摩郡荒田郷五十畑」と記されていて、この記述が現在の新村であると推測されています。

再発見!!

まつもと地名がたり

10

新村地区

御伽草子に登場するものぐさ太郎の伝承地も存在する一方、学びの場松本大学もあります。



松本平の野鳥たち



ハイタカ (2016年1月松本市笹賀 写真提供:信州野鳥の会)

ハトよりやや大きく、尾は長めで翼も幅広い。一般的にワシやタカの仲間はメスがオスより大きいですが、ハイタカやオオタカでは特にはっきりしている。ハイタカのメスとオオタカのオスを見分けるのは難しい。アルプス公園でも小鳥を追いかけて素早く飛んだり、日陰で静かに止まっている姿を見かけることもできる。

まつもと散歩

物語のつづきを考える
みんなハッピーエンドに
なるように...



(撮影: 2025.2.22 PARCO前)